



澄み切った青空の下で、熟した柿にとまるアカタテハの鮮やかな赤い姿は、秋の深まりを感じさせてくれます。11月には姿を見せたこの蝶も12月に入ると姿を見せなくなります。命を終えたのでしようか？いや、厳しい冬の寒さを耐え忍ぶ場所にひっそりと姿を隠したのです。

### 成虫で厳しい冬を越す

アカタテハは成虫のまま単独で冬を越す蝶なのです。秋深く寒い日が続くころになると、家の軒先や戸袋の脇、崖や土手のすき間などに静止し、そのまま冬を越します。温度変化が少なく、直接風雨にさらされない場所が選ばれます。

温暖な日には飛び出したりしますが、

## 里山に育む生きものたち

### 44 アカタテハ

(チョウ目 タテハチョウ科)

学名 *Vanessa indica* (Herbst)

文・写真 / 小菅 次男

再び同じ場所に返るのが見られます。越冬した蝶が春早い時期に見られるので、春を呼ぶ蝶とも言われます。

### 人里でも見られる蝶

日本全土に広く分布し、山地、平地ともに普通です。国外では朝鮮半島、台湾からインド、オーストラリアにかけて広く分布しています。

成虫は年に数回発生し、早春から晩秋まで見られますが、夏に少なく秋に多くなります。アザミの花に好んで飛来し、樹液や熟柿にもよく来ます。

同じ仲間のヒメアカタテハはさらに分布が広く、世界全体に分布する蝶として有名です。私はかつてイタリアで、訪問先の学校で見かけ、大変懐かしく感じたのを思い出します。

### 英名は赤い海軍大将

英名では、レッド・アドミラル（赤い海軍大将）と言われます。一方ヒメアカタテハは、ペインテッド・レディ（おめかしをした貴婦人）と呼ばれ、いかにも女性らしい感じですが、アカタテハはそれに比べると男らしい雰囲気があり、海軍大将と呼ばれるのも納得できます。

### 巣作りで身を守る幼虫

食草のカラムシ、イラクサなどは街中の道端や土手などによく生えています。カラムシからとった糸は、縄文人が衣服として利用したことが知られ、現在も「小千谷ちぢみ」などとして利用されています。

幼虫はこれらの葉を巻いて巣を作ります。葉の付け根をかじり、葉の左右を糸で綴じ合せ、袋状の巣を作ります。幼虫はこの中に潜み、葉の先端から食べ、巣が小さくなると別の巣を作り移住し、巣の中で蛹となります。

このように巣を作るのは、鳥やハチなどの天敵から身を守るためです。ところが、虫好きな人は、袋状にした巣が白く目立つので、幼虫を容易に見つける事が出来ず。

来春、眠りから覚めた「赤い海軍大将」を見かけたら、どうか「よくぞ冬を越したね」と、敬礼をしてやって下さい。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス [ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp](mailto:ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp)

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成27年10月末現在)  
◆総人口 33,607人 (+33)、男 16,778人 (+23)、女 16,829人 (+10) ◆世帯数 12,706世帯 (+41)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています